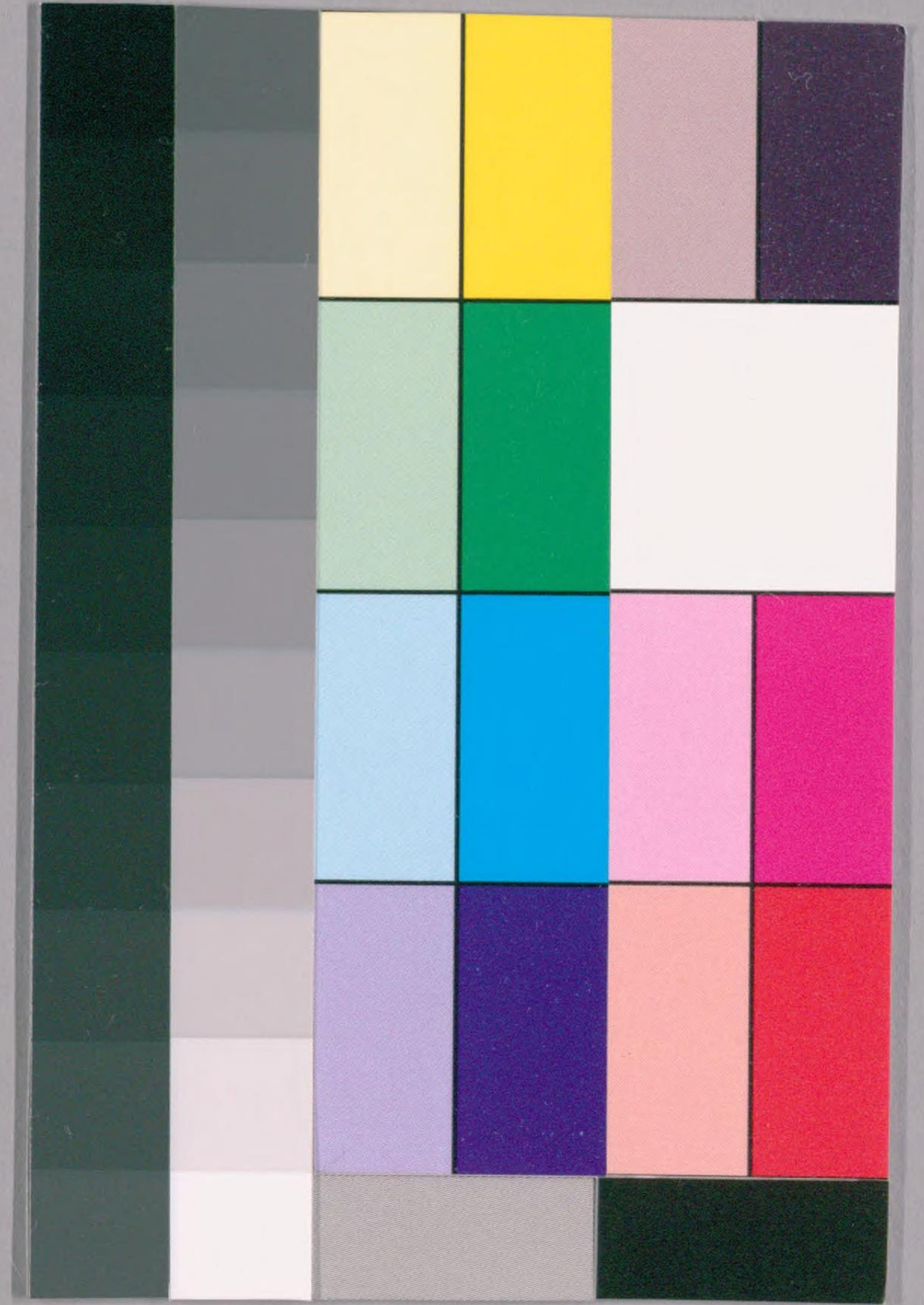


特 1  
3127



国立国会図書館

タイトル『救荒便覧』 請求記号 特1-3127

ガラス使用

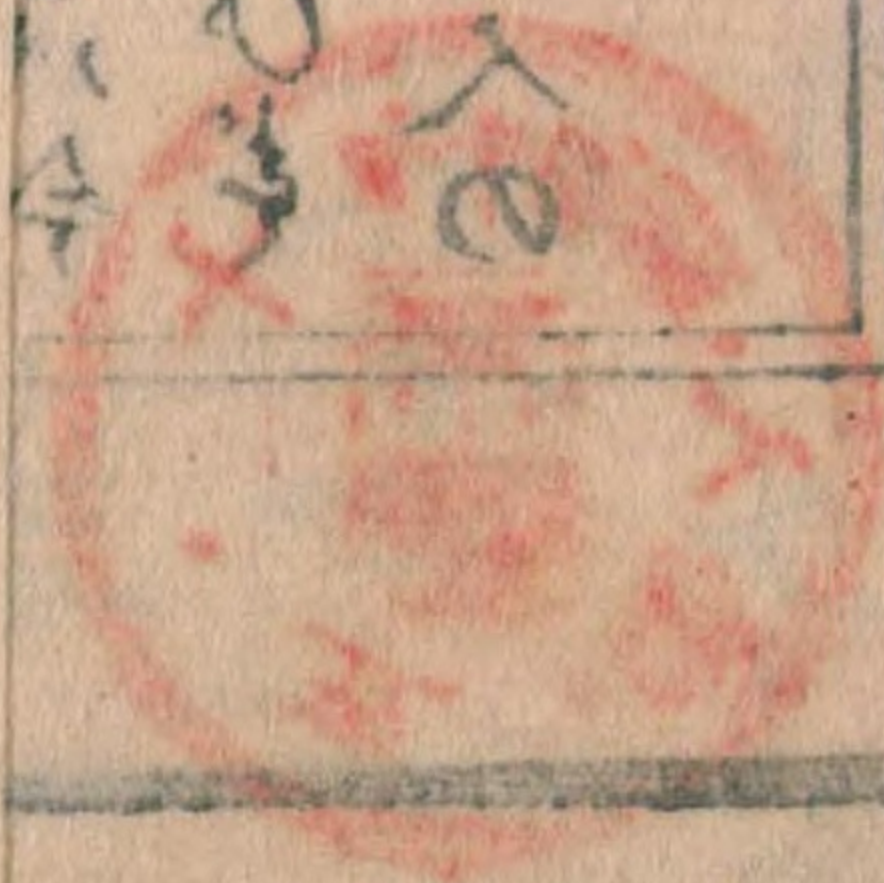


救荒便覧

頂戴

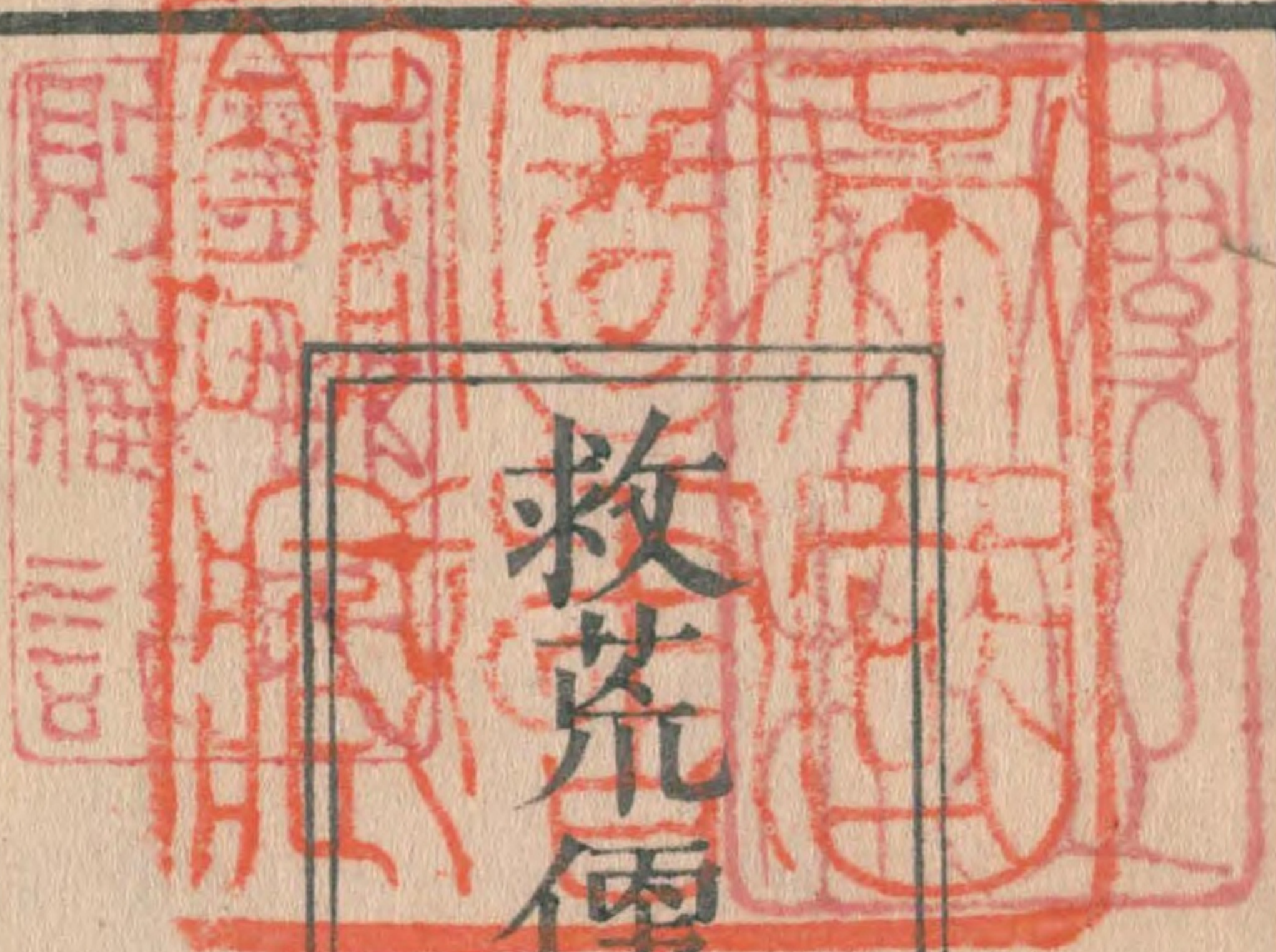
見ゆまじし... 救荒の書... 贈...

白鷺斎蔵





救荒便覽合編序  
語曰極災貴早言緩則無及也  
當窮黎嗚呼仰給於上之日而士  
大夫始講之朝廷之上其勢固難  
矣友人遠藤士同氏有憂於此



救荒便覽

前集

饑歲賑濟の書世に稀なるを今  
和漢の書小根據て臆見と用ひも  
煩と省き要と摘むるは人の  
見やせぬん為小作らるり

白鶴義齋藏板



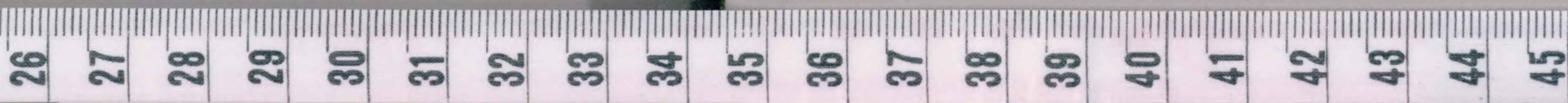


特 1  
3127

嘗著救荒便覽以備施設賑濟之  
道營生之方一瞥瞭然至簡至  
要可以應急也今茲荒歉又有  
續編之著於是纖微悉備士同  
之憂民噫亦至矣任荒政者

擇宜施設則災變可救窮黎可  
獲亦惡罪歲焉余亦與士同  
憂者為弁一語於簡端云時  
天保丙申之冬

紀藩侍講兼勸農辨驗仁井田好古識





九例

一皇國ハ五穀豊ゆたかかれバ救荒全備の書未見今和漢明君賢相及ひ先哲素行饒叟蕃山三輪闇齋樂軒古義諸先生木門菽門諸君子ハ高論こうろん本きて演述えんじゆつ野語稗史びやくしも益えき有あハ取と之の雜記ざつぎ畧抄りやくしやう編次へんじ錯互さくごせるハ唯人の見易みやすきふころく文飾虚詞ぶんじやくじゆ用ひひひひ

一集中殿字様字字号官名あど稱呼の宜よろきことと失あはれよも何なにぞと元書もと此儘このままふたるは是正このま暇あひだありれげならば

一此書寫字誤脱も多おほくべくく看みえ長を断短たぢを補たひ玉りも多幸たしと云

○荒政之典

○堯之為君也存心於天加志於窮民一民饑曰我饑之也一民寒曰我寒之也一民有罪曰我陷之也百姓戴之如日月視之如父母○湯因旱禱於桑林以六事自責曰政不節歟民失職歟宮室崇歟婦謁盛歟苞苴行歟讒夫昌歟何以不雨而至斯極也言未已大雨方數千里○王制云國無九年之蓄曰不足無六年之蓄曰急無三年之蓄曰國非其國也三年耕必有一年之食九年耕必有三年之食以三十年之通制國用雖有凶旱水溢民無菜色然天子食日舉





以樂○大司徒以荒政十二聚萬民一日散財たぐもくある米穀  
と施ほどこ一人とまくふり二日薄征ほく年貢ねんぐんとわらじて人の心とあら  
むる三日緩刑ゆるぎなん義ぎあそつふ陷おとるものとあらむとゆるるん  
四日弛ゆるカス民とほらひ骨折こしさせび五日舍禁しや上の御場ごばなれどきん  
此時よを勝手かち小こいまをやる六日去幾閑所せけんの吟味ぎんみなくあらたなひ  
もの口錢くちせんあどゆるん七日省禮しやうらいの儀式ぎし客きやくはりてる一禮らい  
をそまへび八日殺哀葬禮さうざうらい向むかふとまつとまる九日蕃樂ばんらく鳴なるものと  
どり停止ていしておとりとさせび十日多婚たこんあらく取繕とりつくろひをくらむ

とりむととり勝手かち小こさすむ一婦人ふじんハおとつとふたらり夫も妻と  
カちふしてとも小こかせぐ時ときハうへまどゆる難儀なんぎをし一十有一日索さく  
鬼神きん宮みややとらのゆめとほらい神々かみ先祖せんぞのり豊年ゆほうねんは  
糸いとが小人こじんの氣きをまめん為なり十有二日除盜賊じゆたうさくとあらせまり  
ぬも人多く又世間よさとどしく人の氣きたらゆめよく手當てあて一とり  
とさむひ○真西山曰夫人之貧富雖有不同推其繇ゆ來均はら是天地之  
子凡天下之疲癯殘疾惇獨鰥寡皆吾兄弟之顛連而無告者也我  
之與彼本同一氣我幸而富彼不幸而貧正當以我之有餘而濟彼

26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



不足自古及今能以惠郵為念者其子孫必賢其門戶必興蓋困窮  
之民人雖忽之天地之心則未嘗不憫之也我能惠郵困窮則是合  
天地之心則必獲天之佑此以理言也若以利害言之無饑民則無  
盜賊則鄉井安是又富家之利也

明君賢臣の言行と舉てりまゝに

○尊と凡君の仰小人皇二十九代 宣化天皇の勅小食ハ天下の  
本也黄金百貫目ありても飢と養つず白玉千箱有とも何ぞも  
飢をくゞんやとて大臣小命とて國々小御藏とたて糧米と積

蓄へさせ不慮の事有とも人民の命ををくゞふべきとの御事也とて  
又戦國せんごくの頃小田原邊と過させ給ひひ小百姓どもはきまきと著き繩  
の帶おびとをあたりし少のを見よ凶年打たぎき皆るんきまると見  
ええくろり吾早く来らばかくハせまどきまるとて御馬上ごまじやうかく御涙と  
なぐりなぐりたまひくれば人々承る傳へ感せぬものハありとて  
げげゆや一滴の御涙四海とくふややたまふ少なき徳の流  
行置郵かう置きゆうして命と傳ふくろりすみありとハ此御事とや申べき  
又夏中なつちゆうハむぎありと召上らまめいあがり小近侍の人白米のいひと碗の底





小入るは計むに置けり汝等予が心とありて今戦國ありて  
士卒寢食とやまんぜ予獨り何ぞ飽食もふ忍んやと○ま  
麥草の左へもれて生えたる世の中ありて右へもれて生えたるハ  
豊年あり民百姓のともるに兒どもの色ざりて母の食物も  
雑穀と不食乳の氣沢山ある故と知べし又芋藏とて去年は芋  
家々小積置土減りけ置土民の糧少し此芋藏未崩ざれば定て糧  
を盡せと見えたり下々の事かくまげあらし召されし人々  
ありがごとく骨ふきごみ忌まされし事少しん○延喜の御代不動

穀とて國々小倉と建らし米穀と儲ひ凶年小備へ給ひし其後  
穀數萬を祿せ置ハ費ありとて止らまたり是より凶年打續き  
適天小河のり水旱の災度々ありて民もふつうもふつうぞ  
天威猶止ざらあや 朱雀院の御宇小至り南海より盜賊起り  
東山道小將門謀反して天下の騷亂止時かく萬民の憂とありし  
とや○のりまの 君もや凶荒の後小御位減繼がせ給ひし  
國用不足せしるば深く憂ひ給ひ扶持方の事と御机の上は常々  
張付させ給ひしとや其外の御美政數多し推してあるべき事



少多じ。某の侯常小桑の葉はりひば用ひしれしと登萬小儉  
と用ひし事推してあふべし又死小臨きていもきしハ吾  
一生各番中うもあふんづまとも凶年少も領分の民ども餓  
死とばさせざりし今ハやとやまて心もとらうす云云あの侯  
天明卯辰兩年民も多小をやとらふ物と分ちたじて  
まゝいせしる數左に注も 米五百二十拾石 粃五萬八千百九  
拾石餘 粟二千百三拾石餘 大麥四石二斗 蕎麥四拾二石餘  
銀二十拾貫餘 錢壹萬四百九十三貫餘斯てもかのて田畑採も

持ざりたる者もあふさましひるれバ國府の侍白川の邊り小  
かり屋とあつしひくすおめ下司とほりておゆと煮さ勢朝  
夕らぐり與へり病めはらまは醫師として藥とあふへし  
まべて此料も右の負數の外おし 寶曆八年の比より粗税  
の内程々小随ひおがう貢せて凶荒の備へと給へりされ  
ども一所小貯へおさそハふらりの事あふん時便かうん事を  
計りておさし小倉とたてておさえおせし其おま九十  
七とあふん上小いさなるも下おまバ百姓どもおのが物のうち



汝思ひくふさうげて此倉小收わく云云天明の比天下凶荒あり  
し亦も此國の民ハ一人も餓死するものありたるは有らざ  
りまことても此穀と貯あはるやまうく保河し取  
まうくハ却て民乃煩ひとあり又虫ぞみあじていづづに  
ありゆくやうの事まうて細ある投あり。ある書ハ天明三年  
夏より秋小至るまで單之の著ハ一三日あるべし云云  
今年より明の四年まで奥羽きんといふれりまは八年來  
御心と盡せん儲藏と發ましくぶくるものかりし隣國乃

飢民入來るをも救ひ給ひ倒まて死するものあまはせん  
小葬らせたまひり又天明四年五穀成就祈禱の為二の丸先君  
の廟へ寺院と召し祈禱あり君自ら食と斷ていのんたる  
小天も誠と感ドとまうくや霖雨忽ち晴し此時候といふり  
しかり又寶曆の凶作小多くの餓死小至りし事汝思ひ召し  
て安永三年勅藏屋鋪此内小新小備米藏と建たまひ穀と蓄  
あり云云又天明四より百姓高百石小年々數三升づ是ハ安永  
五年仰付らる一人一升の外あり云云明和八年義倉御取立あり



安永五より川井小路小義倉と立此年より儲へりめたまひ  
斯る御世話の印を以て天明の凶作不饑み及ばらり。○某侯  
飢民のため小救ひ米出さきし小役人の取計めて貧民ハ  
時々バとて身上よれものへざりありされば饑草多  
うりしふ領主其姦状を聞られてそま手廻りあり救ひ  
むとて倉をむいて自身下知して配分せしむとて古人飢  
と救ふの術ハ賢臣と選ぶと先と手とりふは是が為るべ  
○某侯曰一世の繩紀茶もさき時ハきんとりんども飢る民多く

後世饑饉ありども貧民多きハ驕る役人の下不有故也  
○或曰一年の穀を四分一貯つと法とす今の世ハ勢多  
十分一貯つと不時の用小備ふへ穀の新古年々つと凡三十  
万俵やどげたる手貯ふと法とすべ接ぎふふれハ王制  
一三六九の解あり周南も有解。○明暦酉年正月十八日大風吹き  
さきさきゆへ或人手當とて米穀多く調へ置し江戸中大火  
あて悉く焼土と成ふり江城始りしより初めの事ゆへ死人巷  
不満米穀高ありはむて諸人大き小難義不及び時多くの令





救つるもろく。或曰事大まじき事試みく事多したしんハ藝と  
いハ草ハ植安き草もどとも屋鋪と持あづくもまらく事欠人  
有とて植て見よ藝はせとね土もか心づく事ハ  
かきろり此人一生何れも事か以申さず富貴あて貧あ人  
悉く惠まらんろりもありきんようも平生の心掛かぬ  
かまば是とあるす。養恬曰儉約とハ與ふべきまらと親戚  
朋友困餓の人以救ふ事分小應じて財と惜まず萬事奢り以制  
まらとをひといふあべ。或曰金銀ハたうろかり我身の

榮花小遣あべうは貯へおき飢饉等の時萬人小何とふ  
為あり。昔やつと云事上下とも小有て下々の奴と云奉公  
と能勤め太儀ゆる事と太儀と云ラヂ寒くして寒きほくとせ  
一日食とらぬずともひるもき躰ゆる互の話も供先て命と  
捨用小立働うんと廣言しぬ今太平二百年の久き我人  
御恩徳の厚みあまて辛抱弱くありたり前文小載たる明君  
賢臣の規戒と守りて奴もれとる事あうとべ。或曰當世  
上下とも小穀と賤んどて金と貴ぶかり其心根ハ飢饉して米





穀何程貴とも金銀さへ多も買ふとむる事仕易し此ゆへに  
金銀と第一とて穀と心とせざるあり甚つて心掛たり  
其故ハ二三箇國の饑饉ふら有年の國より饑饉の國へ廻り遣  
も米穀も有るべきかまざるも若二三十國も一年にきん幣は  
廻り遣も米穀も有るべし其時小至て金銀と煎して飲とも  
命ハ助るまじきや尤兵亂は世の農民も快く田作も致し難  
きりはるれば歳飢饉あり米穀ハ不足するりはる此所  
と能吞込て金銀ハ命と救第二番のりのなる事と知米穀と第一

金銀と第二と心得て平日食糧に成べきゆへと貯へると勤屋  
是國郡と領も人第一の覺悟ありて下賤人小至るまで此心掛  
と忘却を事かろ是大ふしてハ武備の肝要とて小にしてハ  
活命の根本ともあり可思糧と貯る法ハ和漢古今の説色々  
ありども一槩小泥事勿き唯國本の肥瘠其年の豊凶と考て臨  
時小分量と定て貯べし大槩饑饉と云りのと二十年小一度程ハ  
到るりはる其心掛めて貯べし

○富人のいましめ



○饑歲ハ天地の變ハやてりりあるへき事ハ角ノりりある  
べきふハあつざれども古キさみみも六歳ハ一饑ハ十二歳ハ一荒  
かどくそありて我 日の本のりやへよりきんノ事ハ史乘  
ふものせ雜説ハも見えて三四五十年の間ハ必ズある事乃  
うりりり畢竟天地のくんハ天の人といまハめたうへるあて  
太平也 御代豊年打法ハき人々 御恩徳のつぎふあま  
つておぼるふも時ハ天よりきんハ降ル人成りりり先  
たまり是天の人とありまも給ふあて永く見えてもた

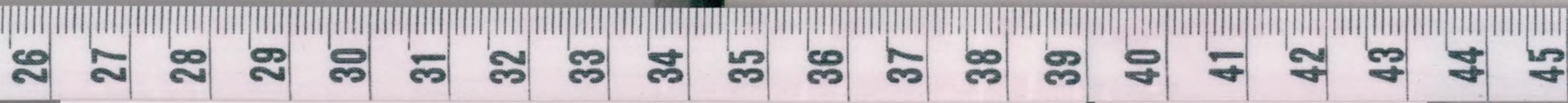
御代のあるとありり給ふあり國無道やて五穀豊給  
もるハ天乃見まて給ふありとりりせんバ人々さるハ天の御  
免ぐみと心得手當ふりりりりひとのがるべし事とあり其身  
とほりりみ御制度と固く守りめ成まり酒りりせげそまら  
ふる衣服と著り住居の好ミ事せげ人と争ひせげ仁心と本と  
自分ノ力ハ及ラけハ人の飢寒とまらひ生死とともふする心得  
第一ハかるべし人の死ぬるもまらひげその身計と思ふり身  
勝手ハりて天の御心ふたがひ神慮ハも背きてまらひり重キ





御罰と蒙るべし。此意とされまへに、この心とや、先其身  
とけし、みだり天のあすり、さうも猶のあつべき事、ふらん。○金銀  
米穀と持てる、りは、その身のまゝ、これにて、身上よくせしむるべ  
あか、が、ち、小身代と、さうひて、人とする、くひ、候へ、との、ふ、あ、わ、ら、ん、ゆ、ど  
き、う、ん、の、節、ハ、憂、患、と、も、あ、す、る、事、古、へ、の、お、き、て、あ、ま、ら、ば、己、が、家、内  
計、生、残、ら、ん、と、の、思、ひ、成、丈、ハ、人、小、施、ま、べ、善、と、積、の、家、少、餘  
慶、あ、ら、ん、と、の、損、と、あ、ら、ば、子、孫、の、榮、と、あ、ら、ん。○自分の  
身、ま、の、り、と、ま、り、て、人、ふ、り、と、あ、ら、ば、ふ、ハ、過、難、と、て、唐、あ、て、も、き、ら、い

法度あり背く時、まづ、ふ、れ、あ、ら、ん、り、自、分、富、貴、あ、て、は、し、當、り  
あ、ま、る、事、か、ら、ま、ど、も、き、う、ん、の、程、何、年、は、か、く、事、も、ま、り、が、こ、  
あ、ら、ん、思、ひ、て、身、と、あ、ら、ん、ひ、あ、ら、ん、く、し、て、施、さ、ず、か、く、人、々、心、得、た、が、あ  
時、と、米、穀、金、銀、一、所、ふ、あ、ら、ん、り、融、通、し、御、世、話、あ、り、と、も、争、う  
あ、ま、ら、ん、く、ら、あ、と、す、ら、ん、べ、き、町、々、國、々、の、豪、商、と、も、あ、ら、ん、り、一、々、身、上  
分、限、御、根、究、か、れ、内、自、分、々、々、と、あ、ら、ん、り、有、余、あ、ら、ん、り、施  
ま、べ、し、き、う、ん、の、ま、く、ひ、あ、て、身、上、と、あ、ら、ん、り、と、あ、ら、ん、り、生、前  
の、面、目、あ、ら、ん、り、事、あ、ら、ん、り、又、ま、く、ひ、あ、て、ら、ん、り、の、も、受、あ、ら、ん、り、の、え

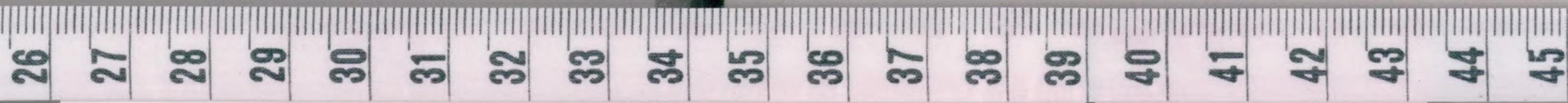




その志也感<sup>こころざし</sup>ドロ<sup>くち</sup>口<sup>くち</sup>々<sup>くち</sup>ふ<sup>くち</sup>り<sup>くち</sup>立<sup>た</sup>か<sup>ば</sup>天<sup>の</sup>の<sup>視</sup>る<sup>事</sup>を<sup>ど</sup>く<sup>人</sup>の<sup>見</sup>る<sup>事</sup>を<sup>不</sup>従<sup>ふ</sup>  
ひた<sup>ま</sup>ふ<sup>ん</sup>ぞ<sup>ん</sup> 仁<sup>に</sup>君<sup>の</sup>を<sup>ど</sup>ぐ<sup>ち</sup>り<sup>し</sup>め<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup> 循<sup>じゆん</sup>吏<sup>し</sup>を<sup>ん</sup>ぞ<sup>う</sup>察<sup>さつ</sup>せ  
ぞ<sup>ん</sup>ん<sup>い</sup>づ<sup>づ</sup>ふ<sup>ふ</sup>金<sup>ぎん</sup>銀<sup>ぎん</sup>米<sup>こめ</sup>穀<sup>こく</sup>と<sup>り</sup>だ<sup>れ</sup>て<sup>お</sup>の<sup>の</sup>番<sup>ばん</sup>人<sup>にん</sup>無<sup>む</sup>慈<sup>じ</sup>悲<sup>ひ</sup>の<sup>人</sup>を<sup>も</sup>  
呼<sup>よ</sup>ぶ<sup>事</sup>を<sup>口</sup>口<sup>くち</sup>き<sup>事</sup>を<sup>ら</sup>ぶ<sup>事</sup>や<sup>凶</sup>饑<sup>き</sup>甚<sup>し</sup>し<sup>る</sup>れ<sup>ば</sup>い<sup>の</sup>ち<sup>旦</sup>夕<sup>たんせつ</sup>お<sup>せ</sup>ま  
火<sup>ひ</sup>や<sup>る</sup>ま<sup>水</sup>水<sup>みづ</sup>溺<sup>おぼ</sup>れ<sup>る</sup>に<sup>決</sup>て<sup>す</sup>あ<sup>ら</sup>ふ<sup>救</sup>ふ<sup>べ</sup>し  
○隣<sup>りん</sup>國<sup>こく</sup>の<sup>人</sup>も<sup>人</sup>を<sup>り</sup>自<sup>じ</sup>國<sup>こく</sup>の<sup>人</sup>も<sup>人</sup>を<sup>り</sup>中<sup>ちゆう</sup>河<sup>が</sup>に<sup>人</sup>を<sup>り</sup>我<sup>わ</sup>子<sup>し</sup>  
か<sup>ら</sup>も<sup>も</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>人<sup>の</sup>子<sup>の</sup>の<sup>お</sup>も<sup>き</sup>も<sup>同</sup>一<sup>だ</sup>天<sup>の</sup>の<sup>御</sup>眼<sup>ご</sup>を<sup>り</sup>見<sup>ま</sup>す<sup>が</sup>皆<sup>みな</sup>人<sup>にん</sup>  
御<sup>ご</sup>子<sup>し</sup>を<sup>り</sup>き<sup>く</sup>ん<sup>ん</sup>難<sup>なん</sup>義<sup>ぎ</sup>の<sup>時</sup>ハ<sup>天</sup>道<sup>てんどう</sup>へ<sup>御</sup>奉<sup>ほう</sup>公<sup>こう</sup>と<sup>心</sup>得<sup>こころえ</sup>上<sup>う</sup>下<sup>げ</sup>と<sup>も</sup>艱<sup>い</sup>苦<sup>く</sup>

と<sup>も</sup>も<sup>や</sup>人<sup>にん</sup>我<sup>わ</sup>の<sup>心</sup>を<sup>り</sup>近<sup>きん</sup>親<sup>しん</sup>と<sup>り</sup>施<sup>せ</sup>と<sup>初</sup>め<sup>る</sup>べ<sup>し</sup>○身<sup>み</sup>上<sup>の</sup>よ<sup>く</sup>  
施<sup>せ</sup>し<sup>ま</sup>る<sup>も</sup>も<sup>た</sup>ら<sup>ぶ</sup>べ<sup>し</sup>就<sup>すなは</sup>中<sup>ちゆう</sup>浪<sup>ろう</sup>人<sup>にん</sup>讀<sup>よ</sup>書<sup>の</sup>の<sup>師</sup>を<sup>り</sup>無<sup>む</sup>禄<sup>ろく</sup>を<sup>り</sup>  
不<sup>ふ</sup>農<sup>のう</sup>不<sup>ふ</sup>商<sup>のう</sup>不<sup>ふ</sup>工<sup>のう</sup>生<sup>せい</sup>産<sup>さん</sup>の<sup>を</sup>り<sup>お</sup>も<sup>は</sup>る<sup>れ</sup>ば<sup>貧</sup>き<sup>人</sup>も<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>べ<sup>し</sup>  
富<sup>と</sup>人<sup>にん</sup>ハ<sup>も</sup>も<sup>よ</sup>べ<sup>し</sup>仁<sup>にん</sup>義<sup>ぎ</sup>と<sup>す</sup>る<sup>人</sup>と<sup>軽</sup>ん<sup>が</sup>る<sup>事</sup>を<sup>ら</sup>ん<sup>其</sup>他<sup>の</sup>も<sup>も</sup>て<sup>て</sup>  
武<sup>ぶ</sup>藝<sup>ぎ</sup>と<sup>る</sup>人<sup>にん</sup>及<sup>およ</sup>び<sup>算</sup>術<sup>のう</sup>手<sup>て</sup>跡<sup>の</sup>の<sup>師</sup>を<sup>り</sup>無<sup>む</sup>禄<sup>ろく</sup>を<sup>り</sup>人<sup>にん</sup>よ<sup>り</sup>至<sup>いた</sup>る<sup>ま</sup>で<sup>夫</sup>々<sup>それぞれ</sup>  
厚<sup>あ</sup>く<sup>す</sup>を<sup>り</sup>ひ<sup>て</sup>そ<sup>の</sup>難<sup>なん</sup>と<sup>の</sup>が<sup>す</sup>べ<sup>し</sup>

○貧<sup>まが</sup>者<sup>の</sup>の<sup>り</sup>ま<sup>し</sup>る<sup>者</sup>也  
○米<sup>こめ</sup>穀<sup>こく</sup>高<sup>たか</sup>く<sup>ん</sup>ば<sup>人</sup>の<sup>氣</sup>だ<sup>ら</sup>も<sup>の</sup>を<sup>り</sup>他<sup>た</sup>人<sup>の</sup>の<sup>り</sup>の<sup>と</sup>奪<sup>う</sup>て<sup>も</sup>わ<sup>ら</sup>ず





命いのちたすめんと思おもふゆゑ不慮ふりの事ことと申まはさすことあり是第一  
 小ほくしむべき事ことあり上かみあは父母ふぼと申まはさす君きみの志こころをせ  
 いうで見みぶかふふむしむべき又國々くに在ある所々ところ僻遠へきとんの地ち  
 至いたるまで國主領主くにぬしありて治あらるるまは夫々それぞれ御手當おてあてありて御  
 すまひ有事相違ありかゝらん人々心成こころおちつけ氣遣きづふれ事成ことはれ  
 まんうすさめゆとすり麥引むぎひより大豆小豆穀類とうふこぶかぎし海草うみくさふ  
 もらんぶゆゑ先まにゆゑ多く其外そのほかも多おほく志こころのまのまの數々かず  
 海まはかと盡つくしいうあもして多おほく志こころのまのまのかりせりあも  
 人ひとをとりり又また争あひぐまに心成こころおちせぬうづむらむら下しもより  
 地ちまはゆゑひむまは此所このところとよく厚あつく心掛こころべし〇其身そのみまづ  
 心を骨折こころても不仕合ふしあはり又また心掛こころあへく平生こころゆゑて衣食いしょく  
 住すまの為ためあつりやきんあかりたくまをたれは自分のゆゑんあり  
 つり遠謀深慮とんとん人の富貴ふきとてをせむむ心こころあるゆゑん  
 平生こころ中ちゆうありくともむくむのゆゑかむらむら後悔こうかいし志こころ成なり  
 恩おんと忘わすれまは是迄これまで自分おのれをくむり不始ふし果はるる後悔こうかいし志こころ成なり  
 改免善人かいめんぜんとあふべし又自分おのれ兼あてるの心掛こころかく餓死うゑしするとも











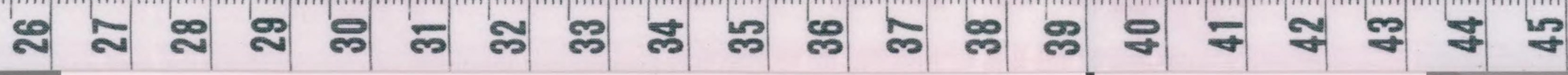


詮<sup>せん</sup>句<sup>く</sup>—此<sup>こ</sup>意<sup>い</sup>味<sup>み</sup>もさつ<sup>つ</sup>き<sup>き</sup>—<sup>が</sup>て<sup>て</sup>—<sup>熱</sup>慮<sup>りょ</sup>深<sup>しん</sup>く思<sup>し</sup>く<sup>く</sup>何<sup>なに</sup>やま<sup>ま</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>と  
か<sup>か</sup>ら<sup>ら</sup>き<sup>き</sup>又<sup>また</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>たる<sup>る</sup>り<sup>り</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>古<sup>こ</sup>著<sup>しよ</sup>の<sup>の</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>へ<sup>へ</sup>

○<sup>きん</sup>饑<sup>せい</sup>歳<sup>さい</sup>の<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>數<sup>すう</sup>并<sup>びやう</sup>氣<sup>き</sup>候<sup>こう</sup>の<sup>こう</sup>考<sup>こう</sup>

○<sup>くさ</sup>草<sup>そう</sup>木<sup>もく</sup>の<sup>はな</sup>花<sup>はな</sup>或<sup>ある</sup>ハ<sup>う</sup>鳥<sup>ちう</sup>獸<sup>じゆ</sup>と<sup>み</sup>見<sup>み</sup>て<sup>ねん</sup>年<sup>ねん</sup>の<sup>とん</sup>豐<sup>ほう</sup>凶<sup>きゆう</sup>と<sup>と</sup>占<sup>せん</sup>ふ<sup>事</sup>事<sup>じ</sup>其<sup>その</sup>說<sup>せつ</sup>多<sup>た</sup>—<sup>あ</sup>先<sup>せん</sup>蟻<sup>ぎ</sup>  
小<sup>せう</sup>雨<sup>う</sup>水<sup>すい</sup>と<sup>さ</sup>さ<sup>と</sup>り<sup>ね</sup>鼠<sup>ねず</sup>火<sup>か</sup>災<sup>さい</sup>と<sup>判</sup>判<sup>はん</sup>し<sup>鷲</sup>鷲<sup>じゆ</sup>の<sup>巣</sup>巢<sup>す</sup>小<sup>せう</sup>烈<sup>れつ</sup>風<sup>ふう</sup>と<sup>さ</sup>さ<sup>と</sup>り<sup>し</sup>し<sup>竹</sup>竹<sup>ちやく</sup>乃<sup>なり</sup>  
實<sup>じつ</sup>ニ<sup>饑</sup>饑<sup>き</sup>歳<sup>さい</sup>と<sup>辨</sup>辨<sup>べん</sup>し<sup>井</sup>井<sup>い</sup>水<sup>すい</sup>の<sup>は</sup>は<sup>く</sup>く<sup>ふ</sup>ふ<sup>颶</sup>颶<sup>きゆう</sup>風<sup>ふう</sup>と<sup>さ</sup>さ<sup>と</sup>り<sup>山</sup>山<sup>さん</sup>鳴<sup>なり</sup>煙<sup>えん</sup>荒<sup>かう</sup>と<sup>見</sup>見<sup>み</sup>る<sup>句</sup>句<sup>く</sup>ど<sup>ど</sup>必<sup>ひつ</sup>必<sup>びつ</sup>證<sup>てい</sup>と<sup>す</sup>す<sup>ふ</sup>ふ<sup>た</sup>た<sup>く</sup>く<sup>し</sup>し<sup>り</sup>り<sup>さ</sup>さ<sup>ん</sup>ん<sup>ど</sup>ど<sup>も</sup>五<sup>ご</sup>月<sup>げつ</sup>雨<sup>う</sup>と<sup>く</sup>く<sup>六</sup>六<sup>りく</sup>月<sup>げつ</sup>雨<sup>う</sup>  
井<sup>い</sup>の<sup>水</sup>水<sup>すい</sup>暖<sup>だん</sup>く<sup>ふ</sup>八<sup>はち</sup>九<sup>きゆう</sup>月<sup>げつ</sup>か<sup>ら</sup>ダ<sup>雨</sup>雨<sup>う</sup>又<sup>また</sup>大<sup>だい</sup>風<sup>ふう</sup>大<sup>だい</sup>水<sup>すい</sup>冬<sup>とう</sup>暖<sup>だん</sup>め<sup>て</sup>雷<sup>らい</sup>且<sup>かつ</sup>地<sup>ち</sup>震<sup>しん</sup>も

あり<sup>て</sup>て<sup>春</sup>春<sup>しゅん</sup>小<sup>せう</sup>成<sup>せい</sup>度<sup>た</sup>々<sup>々</sup>の<sup>雪</sup>雪<sup>ゆき</sup>ト<sup>う</sup>う<sup>ん</sup>甚<sup>しん</sup>く<sup>も</sup>凶<sup>きゆう</sup>年<sup>ねん</sup>たる<sup>事</sup>事<sup>じ</sup>舊<sup>きゆう</sup>記<sup>き</sup>と<sup>閱</sup>閱<sup>て</sup>知<sup>ち</sup>  
粒<sup>りゅう</sup>米<sup>まい</sup>狼<sup>ろう</sup>戾<sup>り</sup>市<sup>し</sup>街<sup>がい</sup>小<sup>せう</sup>す<sup>ふ</sup>り<sup>も</sup>必<sup>ひつ</sup>凶<sup>きゆう</sup>年<sup>ねん</sup>あり<sup>と</sup>し<sup>り</sup>天明<sup>ていめい</sup>五<sup>ご</sup>  
己<sup>み</sup>年<sup>ねん</sup>前<sup>ぜん</sup>ハ<sup>豊</sup>豊<sup>ほう</sup>年<sup>ねん</sup>は<sup>己</sup>己<sup>ぎ</sup>卯<sup>みう</sup>年<sup>ねん</sup>ハ<sup>金</sup>金<sup>きん</sup>壹<sup>いつ</sup>兩<sup>りやう</sup>ニ<sup>米</sup>米<sup>まい</sup>壹<sup>いつ</sup>石<sup>せき</sup>五<sup>ご</sup>斗<sup>と</sup>と<sup>り</sup>る<sup>文</sup>文<sup>ぶん</sup>政<sup>せい</sup>三<sup>さん</sup>  
年<sup>ねん</sup>ま<sup>で</sup>豊<sup>ほう</sup>年<sup>ねん</sup>つ<sup>れ</sup>同<sup>どう</sup>四<sup>し</sup>己<sup>ぎ</sup>年<sup>ねん</sup>春<sup>しゅん</sup>米<sup>まい</sup>兩<sup>りやう</sup>小<sup>せう</sup>壹<sup>いつ</sup>石<sup>せき</sup>五<sup>ご</sup>斗<sup>と</sup>と<sup>り</sup>る<sup>此</sup>此<sup>こ</sup>年<sup>ねん</sup>早<sup>そう</sup>  
み<sup>て</sup>米<sup>まい</sup>踊<sup>おど</sup>り<sup>兩</sup>兩<sup>りやう</sup>小<sup>せう</sup>壹<sup>いつ</sup>石<sup>せき</sup>と<sup>あ</sup>る<sup>是</sup>是<sup>し</sup>と<sup>り</sup>高<sup>かう</sup>直<sup>ちき</sup>小<sup>せう</sup>成<sup>せい</sup>し<sup>初</sup>初<sup>しよ</sup>り<sup>の</sup>の<sup>寛</sup>寛<sup>かん</sup>永<sup>えい</sup>  
と<sup>り</sup>今<sup>いま</sup>小<sup>せう</sup>至<sup>し</sup>る<sup>饑</sup>饑<sup>き</sup>歳<sup>さい</sup>の<sup>年</sup>年<sup>ねん</sup>數<sup>すう</sup>並<sup>びやう</sup>ニ<sup>氣</sup>氣<sup>き</sup>候<sup>こう</sup>の<sup>考</sup>考<sup>こう</sup>へ<sup>の</sup>の<sup>寛</sup>寛<sup>かん</sup>永<sup>えい</sup>十<sup>じゆ</sup>九<sup>きゆう</sup>年<sup>ねん</sup>饑<sup>き</sup>  
饑<sup>きん</sup>二<sup>に</sup>十<sup>じゆ</sup>八<sup>はち</sup>年<sup>ねん</sup>目<sup>め</sup>寛<sup>かん</sup>文<sup>ぶん</sup>九<sup>きゆう</sup>年<sup>ねん</sup>京<sup>きやう</sup>き<sup>ん</sup>七<sup>しち</sup>年<sup>ねん</sup>目<sup>め</sup>延<sup>えん</sup>寶<sup>ほう</sup>三<sup>さん</sup>卯<sup>みう</sup>年<sup>ねん</sup>と<sup>り</sup>ん<sup>二</sup>十<sup>じゆ</sup>五<sup>ご</sup>  
年<sup>ねん</sup>目<sup>め</sup>元<sup>げん</sup>禄<sup>ろく</sup>十<sup>じゆ</sup>二<sup>に</sup>年<sup>ねん</sup>八<sup>はち</sup>月<sup>げつ</sup>夜<sup>や</sup>大<sup>だい</sup>風<sup>ふう</sup>木<sup>ぼく</sup>と<sup>援</sup>援<sup>えん</sup>屋<sup>いつ</sup>と<sup>た</sup>へ<sup>る</sup>冬<sup>とう</sup>關<sup>かん</sup>東<sup>とう</sup>と<sup>り</sup>ん<sup>兩</sup>兩





小七斗是より連年不作米踊る同十三辰年六斗酒造五分一  
に成る同十四年冬、関東きん途は饑等あり都下一人一合の御救  
餓人あり十五年春相止む三十二年日享保十七子年西國京都  
近國大凶年稻ふらん付腐る翌年正月米百二十目去冬より和  
暖あて梅椿大く咲出正月二日雪三四寸積り雪中に大雷雪もひ  
とあり地震もあり白晝小星飛十四日和暖七ツ時お落江戸原宿より  
出火傳通院焼失家あり所ありやけ止る廣さ二十町余長さ八二里  
余とあり二十四年日寶曆五亥五月中旬より寒氣行りて八月

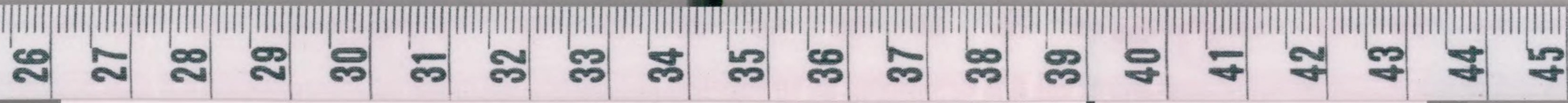
の末まで雨ふりはつたその間五七日雨やむとあり初冬の如く  
三伏の暑もぬの子とわらふ水田へ入りて芸するの手足ひく  
まぶえ寒さあて稻はるるまぶあて長ぜは穂は出たききも  
このらに奥羽さるとあり安永元辰年江戸大火同二疫邪流行同  
三諸國大風同六酉年東國洪水同七洛中洪水天明元丑年関東洪水  
おたけ歌よきみうらすまきくたけふあは忘まきいどや子乃  
と一だ二十九年日天明三卯の春寒氣つよく五月まで余寒さる綿  
入と用也七月雨ふまき砂とあり信濃國淺

やけ出夥に



あと人のある所なりやけ前晴天一日もぬ 百十日丑寅より  
大風起り二夜三日やまらず雨降る此迄六月始より九月末  
まで降るるの青立ふなりみれは是より同六年きん  
明る七未年米百文ふ三合五勺とむる無分別ものさうに立米  
屋とあがつ夫より豊年降るき文化十三子年八月四日大南風雨  
り竹木の梢皆枯梅桃咲出たり文政三辰年二月より霖雨六十  
日程野菜たらくな一と四十八文同四巳年春ゆくの童謡を  
やる今年早魃周禮ふ早暎の舞あり奇とるべ米雨ふ壹石

五斗あり一と俄ふはより石六十目と成文政五年年正月日暈  
連環の如とつり西國ひでり七月白晝星多く見や江戸大水雨  
國橋ぞり通用十二月山の手大火めく時ハ火事ある事と知  
ぬ一文政六未年旱り八月十七日大荒十月晝雷ふる桃櫻さつり  
ふ開く同八月相模大山崩る同九戌正月元日二日大雪木氷ふ同  
十亥年正月六日大雪平地二尺同月十二日雨木氷ふ同十九日大雨  
夜ふ成り大風北日朝より烈風甚し四月より不順ある五六月  
日々くもる六月土用裕と用也疫邪流行半しる七月四日初て





雨八月冷氣甚し裕と用て猶寒し十二月十七日上方大雷きて  
人の風説あり同十一子年正月四日雷六日雷三月より雨多暖氣種  
物くさる此月十六七八日日輪光なり霧多六月土用晴兩日計  
冷氣少て裕と用也十五日山王祭り裕より當夏中庭へ水とる  
ふ及び八月九日長崎大荒十日藝州ゆき十一月廿八日越後大地震  
江戸少し同十二年春寒大雪二度米雨ふ六斗八升二月十六日大風  
音羽出火二里余のやけ三月廿一日大風晝四時十段神田佐久間町出  
火西北の風少て南八新橋外東南八八左門島まで二月雨ふ七斗三升

三月 雨ふ六斗六升余四月雨ふ六斗七升程五月七斗三升九月雨  
ふ六斗五升或は五斗三升とも八月二日大風十五日同米貴し  
白米百文ふ六合五勺七月但馬因幡大あきあり大火後ハ必大荒  
あふより明和九大火後八月廿九日大荒享保明和文政よく相似  
たり○醉吟子曰鴨の長明が方丈記ふ 安徳天皇の養和の頃二  
年う間飢饉はたて大風旱して人民大ふ苦しみよりのものも食  
とるり或も路頭あり急倒れ死せどもとりすつることもあつた  
其くさきといはんくさくさといへり其くさくさ子天明三の餓死





のゆきまふりく似たり○十一月十九日夜雷 二月雨多し雪あり  
火事少し同十三寅年去冬より今春まで雪あり二日微雨八月微  
霰雨ふまより木氷る雷閏三月廿九日暴風雨大さ茶碗ほどかき雷  
降麥ふりり稲苗黒くるる二月頃より伊勢へおけけ参り  
毎日數萬人との伊勢大火 御宮別条あり山奥までおけけ入七月  
二日より京都大地震天保二卯年まで微動十月廿九日大風雨微  
雪木葉氷る是より冷氣大寒のごとく寒中ふ成て暖氣雪るく  
十二月廿日少し雪天保二卯年正月十二日暖温三月の如し同十三日

大風同十四日杜鵑時候ふ先ち類ふ啼去年十二月より今二月迄  
雨なく春大風多し今中旬より四月初まで雨六月廿日江戸大雷  
即死二三十人といひ七月十七日大風雨二夜三日止む當夏ハ暑氣  
甚しく雷雨も有是より前大南風吹込今日北風あて大がへし  
天保三辰年春寒甚しき三月岐岨大雪十一月琉球人來聘寒氣  
は雪も度々前月より疫邪流行ありふ至りてやむ十月廿日  
あ海大南風暖氣三月のごとく柱よりあづく流まわびたみあり  
ぬ今茲春の末より飛驒高山の府十里なり 間山々の箬竹一根



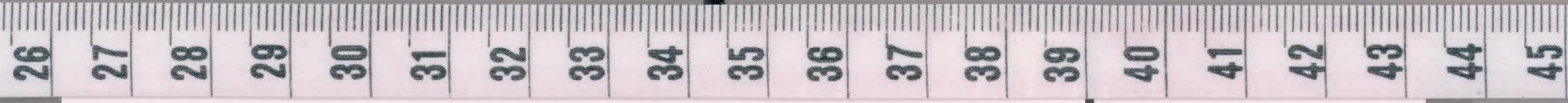


より二莖三莖づつ穂<sup>ね</sup>ゞて其高<sup>たか</sup>さ四五尺穂<sup>ね</sup>の<sup>す</sup> 黍<sup>いね</sup>の状<sup>かたち</sup>似<sup>に</sup>たり夏<sup>なつ</sup>  
及び<sup>あ</sup>び<sup>び</sup>る<sup>る</sup>の<sup>の</sup>土<sup>つち</sup>入<sup>い</sup>争<sup>あ</sup>ひ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>て廿五六万石得<sup>え</sup>て貯<sup>たくわ</sup>ふ<sup>ふ</sup>とい<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>此<sup>こ</sup>五<sup>ご</sup>六<sup>ろく</sup>年<sup>ねん</sup>  
前<sup>まへ</sup>美<sup>み</sup>濃<sup>のう</sup>信<sup>しん</sup>濃<sup>のう</sup>近<sup>ちか</sup>江<sup>え</sup>其<sup>その</sup>外<sup>あ</sup>國<sup>くに</sup>々<sup>々</sup>も<sup>も</sup>あり<sup>り</sup>と<sup>と</sup>聞<sup>き</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>正<sup>せい</sup>徳<sup>とく</sup>享<sup>きやう</sup>保<sup>ほ</sup>の<sup>の</sup>比<sup>ひ</sup>も<sup>も</sup>  
あり<sup>り</sup>て今<sup>こ</sup>年<sup>ねん</sup>ま<sup>ま</sup>で<sup>で</sup>百<sup>ひゃく</sup>二<sup>じ</sup>十<sup>じゅう</sup>年<sup>ねん</sup>と<sup>と</sup>云<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>十<sup>じゅう</sup>一<sup>いち</sup>月<sup>げつ</sup>末<sup>まつ</sup>寒<sup>さむ</sup>氣<sup>き</sup>微<sup>こ</sup>雪<sup>ゆき</sup>ふ<sup>り</sup>り<sup>り</sup>北<sup>きた</sup>風<sup>かぜ</sup>烈<sup>れつ</sup>  
十<sup>じゅう</sup>二<sup>に</sup>月<sup>げつ</sup>雪<sup>ゆき</sup>少<sup>すく</sup>一<sup>いち</sup>暖<sup>ぬ</sup>氣<sup>き</sup>同<sup>どう</sup>己<sup>こ</sup>年<sup>ねん</sup>春<sup>はる</sup>寒<sup>さむ</sup>大<sup>だい</sup>雪<sup>ゆき</sup>度<sup>ど</sup>々<sup>々</sup>二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>四<sup>し</sup>月<sup>げつ</sup>ハ<sup>ハ</sup>晴<sup>は</sup>日<sup>ひ</sup>多<sup>おほ</sup>く  
四<sup>し</sup>月<sup>げつ</sup>十<sup>じゅう</sup>一<sup>いち</sup>日<sup>にち</sup>十<sup>じゅう</sup>二<sup>に</sup>日<sup>にち</sup>日<sup>にち</sup>輪<sup>りん</sup>朝<sup>あ</sup>暮<sup>ぼ</sup>丹<sup>たん</sup>の<sup>の</sup>ぐ<sup>ぐ</sup>と<sup>と</sup>光<sup>ひかり</sup>る<sup>る</sup>霧<sup>きり</sup>深<sup>ふか</sup>き<sup>き</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>く<sup>く</sup>と思<sup>おも</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
正<sup>せい</sup>陽<sup>やう</sup>の<sup>の</sup>月<sup>げつ</sup>陰<sup>いん</sup>氣<sup>き</sup>ち<sup>ち</sup>り<sup>り</sup>饑<sup>う</sup>歲<sup>さい</sup>の<sup>の</sup>兆<sup>しやう</sup>五<sup>ご</sup>月<sup>げつ</sup>陰<sup>いん</sup>晴<sup>せい</sup>半<sup>はん</sup>を<sup>を</sup>梅<sup>うめ</sup>實<sup>み</sup>多<sup>おほ</sup>一<sup>いち</sup>六<sup>ろく</sup>月<sup>げつ</sup>長<sup>なが</sup>  
ぢ<sup>ぢ</sup>り<sup>り</sup>冷<sup>ひや</sup>氣<sup>き</sup>行<sup>い</sup>く<sup>く</sup>土<sup>つち</sup>用<sup>もち</sup>中<sup>ちゆう</sup>裕<sup>ゆう</sup>も<sup>も</sup>一<sup>いち</sup>綿<sup>わた</sup>入<sup>い</sup>用<sup>もち</sup>ひ<sup>ひ</sup>度<sup>ど</sup>と<sup>と</sup>一<sup>いち</sup>兩<sup>りやう</sup>日<sup>にち</sup>あり<sup>り</sup>七<sup>しち</sup>月

七日<sup>しちにち</sup>老人<sup>らうじん</sup>綿<sup>わた</sup>入<sup>い</sup>用<sup>もち</sup>也<sup>や</sup>八<sup>はち</sup>月<sup>げつ</sup>朝<sup>あ</sup>日<sup>にち</sup>朝<sup>あ</sup>小<sup>せう</sup>雨<sup>う</sup>四<sup>し</sup>時<sup>じ</sup>より<sup>より</sup>颶<sup>あつち</sup>風<sup>かぜ</sup>初<sup>はつ</sup>ハ<sup>ハ</sup>東<sup>とう</sup>北<sup>ほく</sup>風<sup>かぜ</sup>つ<sup>つ</sup>り<sup>り</sup>  
又<sup>また</sup>西<sup>せい</sup>南<sup>なん</sup>の<sup>の</sup>風<sup>かぜ</sup>吹<sup>ふ</sup>終<sup>しゆう</sup>り<sup>り</sup>北<sup>きた</sup>風<sup>かぜ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>九<sup>く</sup>月<sup>げつ</sup>不<sup>ふ</sup>令<sup>れい</sup>地<sup>ち</sup>震<sup>しん</sup>一<sup>いち</sup>兩<sup>りやう</sup>度<sup>ど</sup>少<sup>すく</sup>一<sup>いち</sup>暖<sup>ぬ</sup>氣<sup>き</sup>  
此<sup>こゝろ</sup>冬<sup>ふゆ</sup>暖<sup>ぬ</sup>氣<sup>き</sup>且<sup>かつ</sup>雷<sup>らい</sup>雨<sup>う</sup>河<sup>か</sup>づ<sup>づ</sup>お<sup>お</sup>そ<sup>そ</sup>る<sup>る</sup>べき<sup>き</sup>な<sup>な</sup>能<sup>よ</sup>氣<sup>き</sup>候<sup>こう</sup>と<sup>と</sup>考<sup>かんが</sup>へ<sup>へ</sup>手<sup>て</sup>當<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>べ<sup>べ</sup>  
わ<sup>わ</sup>が<sup>が</sup>ひ<sup>ひ</sup>ハ<sup>ハ</sup>な<sup>な</sup>を<sup>を</sup>ぞ<sup>ぞ</sup>り<sup>り</sup>ふ<sup>ふ</sup>す<sup>す</sup>る<sup>る</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>る<sup>る</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>心<sup>こゝろ</sup>得<sup>え</sup>る<sup>る</sup>一<sup>いち</sup>

○兼葭<sup>しんげ</sup>の<sup>の</sup>葉<sup>は</sup>と<sup>と</sup>見<sup>み</sup>て<sup>て</sup>出<sup>い</sup>水<sup>すい</sup>と<sup>と</sup>知<sup>し</sup>事<sup>じ</sup>

○二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>月<sup>げつ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>葉<sup>は</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>葉<sup>は</sup>一<sup>いち</sup>三<sup>さん</sup>枚<sup>まい</sup>以上<sup>いじやう</sup>は<sup>は</sup>用<sup>もち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>  
見<sup>み</sup>る<sup>る</sup>圖<sup>ず</sup>左<sup>ひだり</sup>の<sup>の</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>葉<sup>は</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>葉<sup>は</sup>一<sup>いち</sup>三<sup>さん</sup>枚<sup>まい</sup>以上<sup>いじやう</sup>は<sup>は</sup>用<sup>もち</sup>ひ<sup>ひ</sup>く<sup>く</sup>  
三<sup>さん</sup>度<sup>ど</sup>と<sup>と</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>う<sup>う</sup>ら<sup>ら</sup>葉<sup>は</sup>一<sup>いち</sup>枚<sup>まい</sup>と<sup>と</sup>四<sup>し</sup>五<sup>ご</sup>六<sup>ろく</sup>七<sup>しち</sup>八<sup>はち</sup>九<sup>く</sup>と<sup>と</sup>六<sup>む</sup>ッ<sup>ッ</sup>ふ<sup>ふ</sup>り<sup>り</sup>付<sup>つ</sup>









さまゝ一臼うすめておれまますのよふらひ米とまがだんぼとす○  
大米ごちハ何なん〜〜〜れまらりぢらへ水みづとらりこ米こめと入いまゆを動うご  
し小砂こすの下もとふあつた時とき分ぶんふうへの方かたよりすくひ上ある  
時ときハまた所ところぢらりふあるやままとわじり少すくゆる〜又またゆるも  
わ〜いとも〜だん子こともする○糝せ味あじ噌そうづけと漬つけ置あきくひ  
この盡つきたる時ときハ少すく〜穀こくとま〜へ煮ゆてすまば死しせざと  
りハ○藁わらと極ごくあまうふきごまのりてさま〜やだんみと  
た〜又またハ石いし臼うすめてむきふるひ米こめとひりて麥むぎおが〜のごとく

して食くま又だんぼともす○栗り○柿き○榎えん柿し○棗ざう○桑そうの實じ干かん  
た〜りハ○止と知ちの實じと水みづあひ〜煮ゆること十五度ごじゅうごより〜  
て食くふ流ながまよ〜一夜いちやつけまば一度いちどあてもより〜○榧けい子こと  
香かう煎せんあ〜て食くする方かた何なんりやれ〜麥むぎのり粉こなと合あ〜飢うと  
あのご○椽く實じ乃の製せい方ほう前まへ小こ同どうト○榎えん實じハ弱じやくき人ひと老らう人じん小せう兒にハ  
食くふ〜とららま水みづ〜浸ひ〜又また水みづと〜ある事こと十四五度じゅうごど渋しぶ味あじと  
さ〜りよ〜む〜て米こめの粉こなとま〜へ餅もち〜して食くふ紀伊きいの國くに熊くま  
野山のさん中ちゆう常じょうハ米こめ麥むぎふま〜へ食くす○胡こ桃とう○榛しん○柯か樹じゆ子こ○干かん葛くわ

26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



萄<sup>くわう</sup>○蘿蔔<sup>らうぼく</sup>切て一度<sup>いちど</sup>ひ<sup>ひ</sup>干<sup>か</sup>あげて汁<sup>じゆ</sup>の<sup>の</sup>又<sup>また</sup>煮<sup>ゆ</sup>し<sup>し</sup>あ<sup>あ</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>葉<sup>は</sup>も  
 時<sup>とき</sup>々<sup>々</sup>干<sup>か</sup>せ<sup>せ</sup>バ<sup>バ</sup>久<sup>く</sup>く<sup>く</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>べ<sup>べ</sup>ー<sup>ー</sup>○水<sup>すい</sup>蘿蔔<sup>らうぼく</sup>○胡<sup>こ</sup>蘿蔔<sup>らうぼく</sup>○野<sup>の</sup>胡<sup>こ</sup>蘿蔔<sup>らうぼく</sup>  
 根<sup>こん</sup>甘<sup>かん</sup>し<sup>し</sup>生<sup>なま</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>食<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>○菘<sup>すう</sup>○薺<sup>さい</sup>○午<sup>ご</sup>菖<sup>しょう</sup>く<sup>く</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>う<sup>う</sup>ま<sup>ま</sup>埋<sup>う</sup>め  
 置<sup>おき</sup>又<sup>また</sup>さ<sup>さ</sup>ふ<sup>ふ</sup>つ<sup>つ</sup>け<sup>け</sup>お<sup>お</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>れ<sup>れ</sup>も<sup>も</sup>み<sup>み</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>り<sup>り</sup>の<sup>の</sup>葉<sup>は</sup>茎<sup>きん</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>食<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>べ<sup>べ</sup>ー  
 ○芋<sup>いも</sup>横<sup>よこ</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>り<sup>り</sup>串<sup>くし</sup>あ<sup>あ</sup>き<sup>き</sup>ー<sup>ー</sup>干<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>葉<sup>は</sup>く<sup>く</sup>さ<sup>さ</sup>干<sup>か</sup>あ<sup>あ</sup>げ<sup>げ</sup>貯<sup>たくわ</sup>ふ  
 ○紅<sup>こう</sup>瓜<sup>か</sup>く<sup>く</sup>す<sup>す</sup>く<sup>く</sup>切<sup>きり</sup>あ<sup>あ</sup>け<sup>け</sup>た<sup>た</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>○豇<sup>しょう</sup>豆<sup>とう</sup>○裙<sup>くわん</sup>帶<sup>たい</sup>豆<sup>とう</sup>○豌豆<sup>わんとう</sup>○菜<sup>さい</sup>豆<sup>とう</sup>○紫<sup>し</sup>  
 芋<sup>いも</sup>○蹲<sup>つん</sup>鴟<sup>し</sup>○青<sup>せい</sup>芋<sup>いも</sup>か<sup>か</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>青<sup>せい</sup>赤<sup>せき</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>ー<sup>ー</sup>○黄<sup>わう</sup>獨<sup>どく</sup>○南<sup>なん</sup>瓜<sup>か</sup>○野<sup>の</sup>山<sup>さん</sup>藥<sup>やく</sup>  
 ○甘<sup>かん</sup>藷<sup>しゆ</sup>○佛<sup>ふつ</sup>手<sup>て</sup>薯<sup>しよ</sup>○薯<sup>しよ</sup>蕷<sup>い</sup>○蚕<sup>さん</sup>豆<sup>とう</sup>○玉<sup>ぎよ</sup>蜀<sup>しよく</sup>黍<sup>ふ</sup>○稷<sup>しやく</sup>○黍<sup>ふ</sup>○黍<sup>ふ</sup>○黍<sup>ふ</sup>  
 蜀<sup>しよく</sup>黍<sup>ふ</sup>○蔓<sup>まん</sup>菁<sup>せい</sup>根<sup>こん</sup>と<sup>と</sup>つき<sup>つき</sup>餅<sup>もち</sup>と<sup>と</sup>ー<sup>ー</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>凶<sup>きゆう</sup>年<sup>ねん</sup>少<sup>せう</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>食<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>  
 ○商<sup>やま</sup>陸<sup>りく</sup>白<sup>はく</sup>根<sup>こん</sup>と<sup>と</sup>り<sup>り</sup>す<sup>す</sup>く<sup>く</sup>切<sup>きり</sup>灰<sup>かい</sup>湯<sup>たう</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>み<sup>み</sup>き<sup>き</sup>の<sup>の</sup>葉<sup>は</sup>も<sup>も</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>び<sup>び</sup>れ<sup>れ</sup>水<sup>すい</sup>  
 小<sup>せう</sup>ふ<sup>ふ</sup>く<sup>く</sup>ひ<sup>ひ</sup>た<sup>た</sup>ー<sup>ー</sup>食<sup>く</sup>す<sup>す</sup>○百<sup>ひやく</sup>合<sup>がふ</sup>○卷<sup>けん</sup>丹<sup>たん</sup>○土<sup>ど</sup>圜<sup>えん</sup>兒<sup>い</sup>○慈<sup>じ</sup>姑<sup>こ</sup>○烏<sup>う</sup>芋<sup>いも</sup>○  
 欵<sup>かん</sup>冬<sup>とう</sup>を<sup>を</sup>蕃<sup>ばん</sup>椒<sup>かう</sup>と<sup>と</sup>入<sup>いれ</sup>生<sup>せい</sup>醬<sup>じやう</sup>油<sup>ゆ</sup>あ<sup>あ</sup>て<sup>て</sup>り<sup>り</sup>つ<sup>つ</sup>あ<sup>あ</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>り<sup>り</sup>○索<sup>さく</sup>吾<sup>ご</sup>四<sup>し</sup>時<sup>じ</sup>食<sup>く</sup>ふ  
 ふ<sup>ふ</sup>れ<sup>れ</sup>と<sup>と</sup>同<sup>どう</sup>魚<sup>ぎよ</sup>毒<sup>どく</sup>と<sup>と</sup>解<sup>げ</sup>ー<sup>ー</sup>河<sup>か</sup>豚<sup>とん</sup>の<sup>の</sup>毒<sup>どく</sup>と<sup>と</sup>げ<sup>げ</sup>ま<sup>ま</sup>や<sup>や</sup>ー<sup>ー</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>お<sup>お</sup>く<sup>く</sup>じ  
 ○菜<sup>さい</sup>苜<sup>もく</sup>煮<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>す<sup>す</sup>ー<sup>ー</sup>○艾<sup>あい</sup>葉<sup>は</sup>は<sup>は</sup>て<sup>て</sup>う<sup>う</sup>て  
 と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>○接<sup>せつ</sup>續<sup>じよく</sup>草<sup>そう</sup>う<sup>う</sup>く<sup>く</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>ひ<sup>ひ</sup>れ<sup>れ</sup>さ<sup>さ</sup>ー<sup>ー</sup>麥<sup>まき</sup>米<sup>まい</sup>ふ<sup>ふ</sup>ま<sup>ま</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>う<sup>う</sup>て<sup>て</sup>と<sup>と</sup>は<sup>は</sup>い<sup>い</sup>○





大薊オオアザミ小薊コアザミあくゆめてよく煮水とくさじし食も○蘆蒿アサギ也  
 びく○苦苣ククよく煮さす○紅藍ベニ縷いとともど同様○繁縷ハシラ  
 ゆびユビ○綿絲菜ワタシ同前○虎杖トラシ右の數種塩とくべうユビ妊にん  
 婦メふメひヒ○地膚チフ○藜アヲ○灰藿アヲ○苧菜アヲ○白苧ヒメ○赤苧アカ○班苧マダ○  
 野苧ノ○馬齒苧ウマ○山蒜ノ○獨活ドク○草石蠶クサ○野蜀葵ノ○菊英キク黄白紫赤  
 葉もよハ○紫蘇ムラ○耳菜ミミ○蒼朮ソウ黑皮ときりうすく切二三夜水  
 ひヒくクふフみミとトりリよヨくクにニきキくク食も○黄精ワウともどとゆひヒ  
 水ミあアせセくク苦クとトりリ醬塩セウと調合す根ハ九度むム九度さサじ  
 よヨくク煮ニて食も○藤フジ○薇根クヱとやりたれ水ミひヒ粉コをとトり餅モチ  
 作スるルてどト食クふ製法セイとくクびヒ同様トウ○蕺菜根シクとよヨくクむム飯イの  
 うウへエふフ置オひヒ食クす○蜀漆シクとくクれレ入イ食クもモべベうウ一宿水イツよヨ浸シ  
 ゆユびビくク蜀漆シクハハてテくクさサきキ臭梧桐クハハくクさサきキ葉ハ大オありリ二物ニ別ベありリ  
 ○稀莼シ○蒼耳ソウゆユびビきキ水ミ少シひヒとトしシ塩醬調シひ食も○萱ウ  
 草クサとくクびビ粉コとくクとくクとくク餅モチおオ作りツりリとくクとくク○防風フウとくク  
 ゆユびビに食も○鼠麴草ソ五行蒿ゴとくクよヨくクきキ米メの粉コふフまマぜゼむム  
 て餅モチとくク食クふ製方セイとくクとくク同ト○桔梗キゆユびビきキ水ミふフひヒとくク





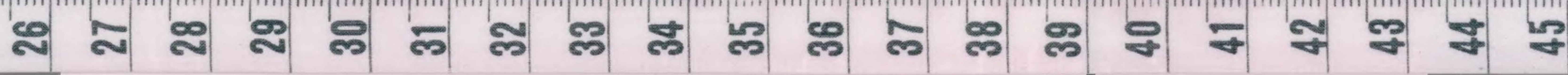








裙帶菜○黑菜○羊栖菜○瓊脂○菌○香蕈○松茸○糖蕈○  
 題頭菌○玉蕈○木耳○石耳○乾魚○决明乾○串海鼠○木魚  
 かつて少づのちバ死せむとて入○鼈○龜○獸皮せつゝの皮  
 とかつて命をつるぎりのれも何う○松の白皮つきて水は敷  
 日印こーよくひー穀とまどへ餅とて用也○鳥獸○魚貝  
 の肉よく煮熟ー食べー○糖藁○麥稗ふどの茎炒て細末  
 ちて湯あられとて吞べー飢と救ふ○葦道具よく煮熟を  
 まば食もべー○清正の家士蔚山籠城の時糧つれ壁土と水よ  
 かきこて吞くらと何りまきの蕪あつゆもあや○海小鹿  
 角菜○海蘊其外海藻類あり食ふべー○山小石麩あり肥  
 後より出くること何り其年きんぬり毒あつてとと止  
 とつゝの観音粉あり皆飢とまふとつゝと遠き方ふん用  
 ひざるがー本草必讀小見也○安永年中万治の糶と塩とを  
 蓄ーと見る性損せずと云人あり○竹實箬竹一名ちすれと  
 實のうらち小麦小似て上下まきあー鋭まり俗よ自然粳  
 又竹麥と号づる飯とるー團子或ハ温鈍あつらとて食す





常小食一妨なく飢饉の備用  
 比類を以て貴きものなりとつり



飛州よ出来

一圖左に

如し

○兵糧丸方

○晒米 十五匁 蕎麥粉 五匁 勝尾  
 武士 三十匁 鰻鱺白干 三十匁 梅干  
 肉 三十匁 生松甘 三十匁 酒蒸  
 右の薬粉を以て梅干肉を松の  
 甘もぐ段々に入能押合を徑  
 三分余を丸にて一日小二三粒  
 げ用也七八日の飢を志のぐ

○又方○蕎麥 三合 晒米 三分 人参 一兩 梅干肉 十匁 松甘 八匁 五十目

甘草 一匁 右丸を一日小二度用也飢を志の以て心氣以強くす妙

あり○又方○干蛇 二十匁 大麥 十匁 鯉 三十目 餅米 五十目 茯苓 十匁

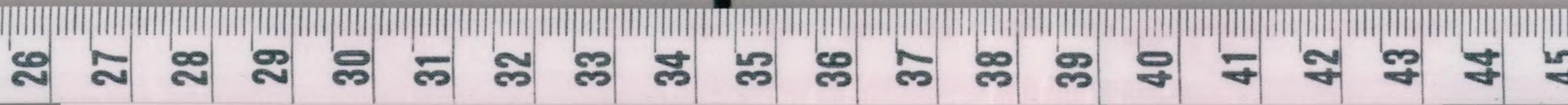
大自上海鼠 三十目 右粉を以て丸ト朝夕一粒げ用也常小遠行食

心りとかれ所へハ持し○又方○人参 一兩 松脂 一匁 白米 五合

右丸を以て用也十五入三日の食ふ成る○又方○桑實の不熟と

干し末を以て湯を以て吞め三日の飢を志のぐ○又方○田螺と

生醬油を以て煮て干かり十粒づつり懐中すべしを以て喉





わづく小湯と吞バ食ふる又串海鼠と醬油ふて煮食す  
まは廿四時りのり又椎茸芋茎と生ぜう油少ていり付  
持又焼塩とくくみくを飢と志の多とソ○右試みて用  
わべー右の法ハ戰場と経一人の秘傳なり後人又傳へて  
秘傳と狭き心得とわべーたぐひ敵國とりとも饑歳  
小糶糶と求めむとわづり與わべー勝敗ハ徳よ何とて糧よ  
あづる○十死一生の妙訣食物もたえせん方少し時津液  
と口中ためてゐのむまゝ時ハ廿余日と保て古人記にたより

○火と用ひず調食事

○糶の粉と餅米とひ寒の内ハ水みてつけ干四五度さうして  
よく干く先海くくむれ袋よ入持て食うればハ印し用也

○鍋と用ひぎ調食事

○米とあも小包と水少つけて取出し地よ置土を少上へかけ  
其下を掘り下よりたくり又あもの上お土とうけ其上めて  
火とくもより米半分食半分程小出来るなり一説は穴  
を掘り火とくればあつくる所へぬきおもとぬれ米と入量又







○鍋の内へ茶碗と一つうはひけて入其上ふ米と入さて潮氣  
入てたくふり此の如くして食ふふり塩氣ハ入りとひとも  
朝ふて直小煮くるとよりハ遙よまふらまふり茶碗の中ふのこもこ

○温食不饘法の事

○腰兵糧のど入持時ゆぢとさまよして器よはあるハ饘るふり  
成程温鍋の中より直ふ器ふ入其まよくゆくは免蓋と仕置ハ  
何程炎暑の時節とりふとも少も饘ざるふり火氣退くふ食ハ  
却て饘よりはある

○粳米と乾飯の法

○うる米と寒水ふ四五日浸しせむらう少て蒸さし乾して瓶  
ふ入貯置べり用る時熱湯ふ浸せば飯とある

○寒と凌ぐ薬方

葛の粉と寒の内酒あつけやして持ふり

○天明饑歳米穀高直の略抄

○奥州邊金一分小付米二升八合○四升八合○四升五合○六升○  
七升○七升五合○あしひる六升五合より七升○つき麥九升八合



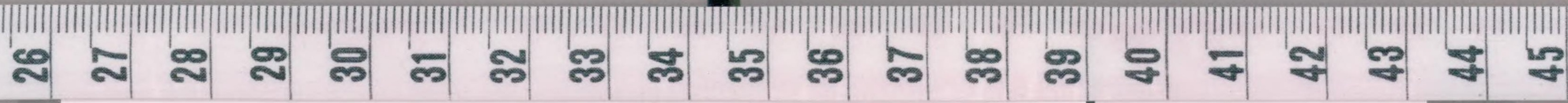


○小麦一斗四升○小麥一斗四升○大豆一斗二升五合○小豆八升  
四合○錢百文小付生糞二升八合○八百文小付砂名糠一俵○十六  
文大根一本○五十文むぎ一連委まゐく農諭小見ゆ求てくるべ

○凶饑悲惨の状と記しておきたりといひまじ

○享保五年のきん小上方の豪商米くらきんきん金持かざ  
難義せしとあるより我法名と云書小見ゆ○宝曆五のきん  
ふある人越後の國へゆきし流茅滿路多ある家よちりり  
見ろ小見二三人と柱おくりつひり何ゆと問小つへいゆ

兄弟たごひふくひ合ひ小付かくまるといひとりき○又隣家  
て何うささくりりり何事ぞと尋ねまま一飯と  
乞しゆんめしにまみ汁とやへへああんんよよかかららともとも狼吞  
と氣絶せしとや湯河洲史語しの食りつめてハ婦人の  
乳出づればちぶささくひ切ららも死しままり又ハ子どももうう  
る親おや小喰付くもも何なももぢぢひひるる横よこの中なかへへいいまま死しを待まちて捨するも  
ありしとや○天明のきん小百金と腰こしに浪人餓死せし  
事ありとや金銀珠玉くら食ふべし寒さむて着きるべしと誠まこと

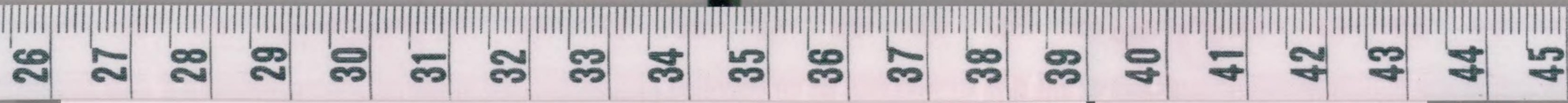




あつり○同時りけて大きんの所みて食物つれて牛馬の肉  
犬猫までも食いつつめ小鬮門相枕籍以死ふりりうまご四五  
十も何りし里々もみる死ふはくく一むた跡をひらふりけむけま  
死骸ハ堆積腐爛て鳥獸のた下れとあり一村蕭然噍類なき  
何りまきたたつん方か一とやえらうう見ぬ事ハきうんたりとも  
さまぐのともあるまどと思つるハ愚あるまらり○享保午の秋米  
類つる高直ふて萬民困窮一盜賊所々小徘徊と夜分往來かく  
晝も僻遠の人むに所ハ往來か一とや

○避穀仙方略抄

○黑豆五斗水少てゆを洗ひあしきふ入むきと三層ん黒皮  
さく又麻の實三斗水小浸して一夜蒸ひて三層んゆつまも一へ  
ぶとふさま一麻の實上の皮口を開きいと日ふ干し其皮と  
去り内の肉むらとりうて右の黑豆のむりたると一所よ白  
入を手拵ふて能搗まぜ粒のあまをぬれ程つれて取出し握て拳  
わどくばく小丸め又籠ふ入夜の五時より九時までむり釜乃内  
は湯減りゆゆ湯とくして其儘めて火と引差置曉七時比





ふまゝに取し置書九時ふ日小干粉小を給申其  
より湯水等とたぐ不申粉むりすに腹小飽ひまを給申其  
後ハ一切の食物と食し申間鋪儀と相聞へ申し○但右の文  
大豆とより御座に共異國少々大豆と計申しハ黒大豆御座に云云  
秋五穀皆無小御座にハ翌年五月比麥出來に近日数多く凌がしく  
節ハ右製しに時節宜く奉存に右藥方の外にも種々御座に共相試  
不申に試ひ方のも申上候 天明七丁未年五月中泮 懇田永年印  
右官工函入春田播磨 醫師懇田永年右兩人相試四十日程無障

あゝ候よ

○飢歳めて食物ふりくまらと療法  
○解諸果菜毒方○童尿和乳汁服○醋とのむもろ○雞乃失  
とやき細末ふしてのむ○頭垢棗大含嚙汁能起死人○何と  
あぐず俄に倒まらる時○甘州と薺花と口中入まばいきら○大便  
つまりらる時○大黃一兩牽牛子半兩細末ふして三匁蜜の湯不  
ての免び○又蕎麥粉二匁半大黃粉一匁右二味ゆる時酒おて給  
○續隨子利大小腸下惡滯物○二便不通火桃葉とつきあふのむ



○又射干根 茶碗ふ一杯吞ばよ。○小便通ぜざる小兒秘結の  
白根とよまらふきざみききふ包とらりきく二ふてかきしるべ  
臍下とあきひまざよ。

○救急方

○墮水凍死小火と以てあざる事なれ布の袋よあつた灰と入る  
胸上とあきひまざよ息出まばぬとくせかん酒せうが湯と吞  
まざよ。○溢死ハそのむねとありとおさへ抱へ起しきざらふ繩  
ととれてまきざらうめくバ口鼻とあきひ両入あて左右の耳と

吹べー○回禄烟薫時ハ大根とあみ汁とのむざー蜜柑もとりー冷  
水とのむもとりー○一切打撲傷損ハ海盤車又きき中貝と云りの  
とや灰とー白湯あてのむ妙あり○一切筋骨損大黃一兩 乱髮灰  
とよまらふの桃仁四十とせん九小見の小便と酒とのむとあきひ吞と  
三度○熱油焼痛ハ白蜜とぬる○湯火傷灼醋とぬる○又馬糞  
と水あてとれ厚ぬる妙○雷震死ハみずとのむきたらじ臍よ  
とらる○又たうきざむとせんトのむ妙あり○卒墮歴倒打死心頭  
あきうとあきハ本人とよまらうせうしうより髪と手ハ巻付強く









猫のよだまをとりけろ。○猫咬ふ薄荷の汁とねろ。○獅子咬めろ  
 青柚のよだまをとりけろ。○獠犬毒少く三稜針をてつき血を出し  
 大根おろしをてよくあひ小便とあけおろしをてつき皮とつ  
 ○又入の糞をつけろもよろ。○馬咬ふ薄荷とねろ。○牛馬齧  
 小白砂糖をのちろ。○蝮蛇咬ふむぐとやれ粉をてつけろ又  
 ひれぐるとろきたがらう。つるもろ。○熊ふ傷らまをて  
 葛根をのちろきたがらう。つるもろ。○葛根汁と二三杯のむべろ。○  
 百虫耳ふ入ふ。韭汁と灌げ出づせろぐの汁もよろ。あぢろ  
 ろおとろもよろ。○河豚毒養魚とせんどをてつろ。○  
 鯛魚大黃末五分冷水うてのむ。○雞子毒醋少のむ。○鼈毒少く  
 こせろとろてのむ。○雉毒ハ犀角一匁のむ。○鴛鴨毒少く  
 米の汁よろ。○蟹毒少く瓜汁冬瓜もよろ。○魚鱈不消少く大黃  
 三兩込消二兩。右とかんざけよて用ふ。○猪肉毒少く大黃汁又杏仁汁  
 又かま大根よ。○諸魚毒少く橘皮よの根の汁又大豆の汁よ。○  
 ○煙草毒白砂糖と水あてのむ又くみたての水味噌もよろ。○  
 諸骨哽ふ白飴糖大口よあてのむ。○魚骨哽咽ふ。猪牙皂角の





未ともか小吹くもあすも又鷓鴣かいらとくらやれあて水ま  
 のむ〇誤吞齧餅咽ふつうへふははは醋と鼻へそぐ又大根の  
 まがり汁とのむ〇誤吞鐵丸ハ韭葱と食ふべし〇中菌毒ハ  
 駕鴛草と啖へばよし又樺皮とせんどのひりるんが櫻子皮  
 を代用て可なり〇誤飲水蛭ハ雄黄よく解き又藍汁とのむ  
 〇竹木刺在肉中不出ハ鹿角と焼水あて和塗る  
 凶歉ハ寒氣と犯ハ山林川谷あも入まてあまねを食  
 と求まば墜墮折傷及び虫獸諸毒ハ觸るくとあれあはる

さんバ親しく試るの藥物并ふ古老有識あも就て問ひあ  
 ましとあせり實ハ估擧の波及老婆心切ふ出たり識者  
 その淺陋とゆじ誤とたゞ短と補いたすな何の幸う是  
 小あうん

〇救荒見合の書  
 〇荒政要覽〇康濟録〇荒政輯要〇廣惠編〇輶車雜錄下二書  
 〇農政全書〇救荒本草〇救荒野譜〇同補遺〇文獻通考〇鹽  
 鐵論等数多し經史あも涉りて吟味あるべし和書あも農業全





書○民間備考錄○田園雜錄○地理細論○貫行○勵行辨○尚儉撮要○農喻等小至るまで其數多しつづきも深切り見ると書と讀み從ひて益あり本と忘まざりて博くべし博くせんハ用とすともまゝか

歳之凶荒不可豫知而備豫之策則有之矣漢之常平隋之社倉良法歷歷載史乘今年凶荒民頗病

公家雖有賑濟而民不飢博施康濟唐虞之所病至荒陬窮鄉則不保無孳餓也余嘗有志于救急著救荒要錄及附錄救急之方

則有備焉而一介之士無力之可以施則豈無慨然乎胸中耶因

摘抄嘗所著書及諸書名曰救荒便覽區區小箋雖不足盡其微意僻遠之書之鄉若取以為救荒之一助則贖素志之萬一云爾

天保四年癸巳八月  
紀伊 白鶴義齋遠藤通謹識

救荒名物補遺審定  
坂本純庵  
男 浩然





附記

○ 軺車雜錄 清の朱文端公著を所ふして饑饉をくひの奏議と  
あつちたる書あり

○ 救荒要録并附録ハ凶歉豫備救急の策を記して常平義倉社  
倉勸糶粥廠等詳ふ載を附録ハ多く國字を用ひて見やまうじひ

○ 廣惠編

清の朱文端公著を所ふして飢歲第一のあつち  
えら一所ふ金銀米穀あつちうらうらうふをき事うんハ専ら勸  
糶の事とあつちしてその言慷慨義烈見る人肝とけ一腸となら

ゆかしくも又あつちふもありて飢民とまきふれ志とねまもの  
書あり今清の聖諭像解ふ做ひて解と作り画とまし人ん  
して感とねことじひ陳情の表と讀て不墮<sup>ハ</sup>涙者其人必不孝とい  
へる廣惠編と讀て不墮<sup>ハ</sup>涙者其人必不仁といん

同社著述

○ 救荒名物圖考 救荒の食品ハもぐふ大略と救荒便覽ふのせ  
たまとも相似たるもの人となつちやまらんハ今寫真して人  
の惑ふうじめんがたあふ作まり 坂本浩然審定并寫真





特 1

3127

○揚州十日記○嘉定屠城紀略

右二書ハ明末清初の事と記たる書少ク十日記ハ揚州の人王秀楚とのくろの清の乱兵少く十日の間かゝれりけし事とつらふ記しそそのいふ事々々あけかゝり事聞るの身毛もふたぢ魂もきもる計ありありさぬり太平の人治ふ乱と忘れずたつてはしき事とやまゝり屠城紀略ハ明末南京亡ひてのち侯峒曾黃淳耀等義兵とあつたり始末つらふ事あり此二書救荒ふら與らんとし飢歳盜賊の起るれあまふ此ふ附記せり 齋藤 蠡校

發行

書林

本石町十軒店

英 大 助

芝 露月町

和泉屋 半兵衛

麴町 四町目

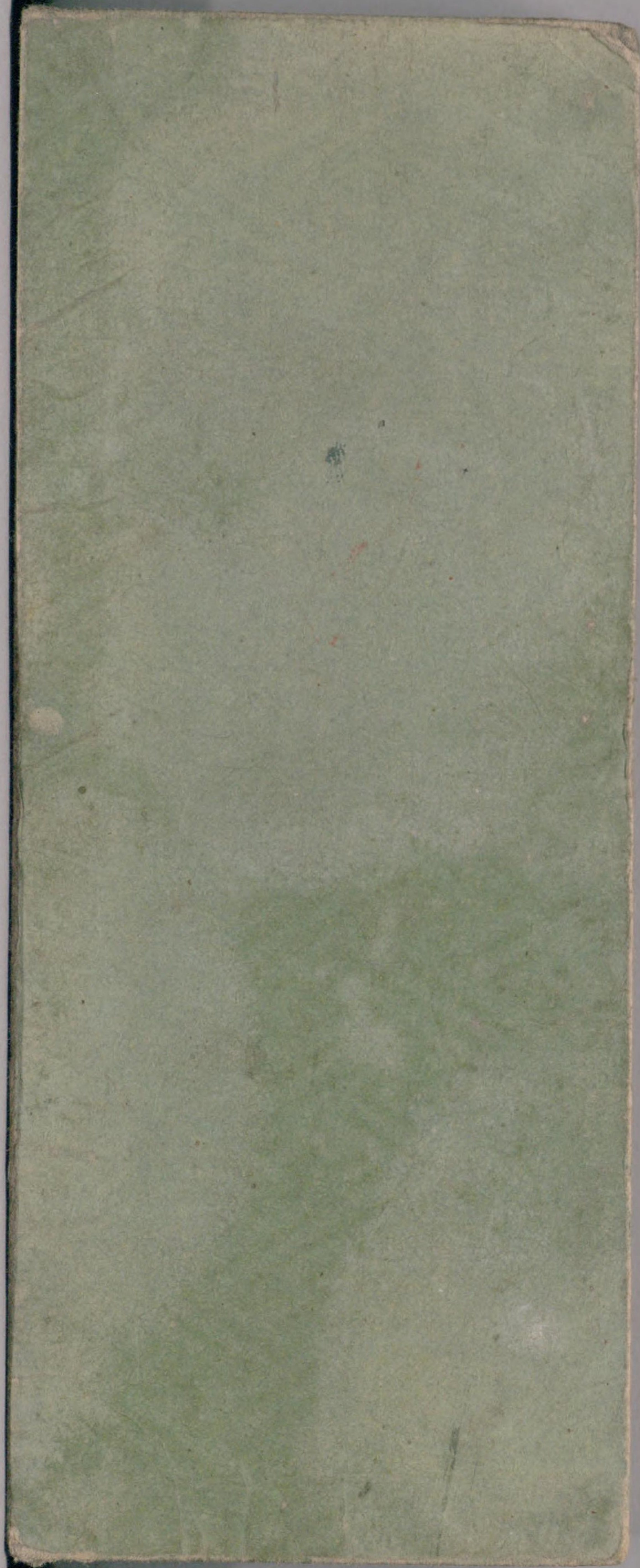
角丸屋 甚 助

四谷 竹町

三田屋 喜 八







国立国会図書館

タイトル『救荒便覧』 請求記号 特1-3127

ガラス使用